

Ⅲ 他機関との連携が出来ているセンター

7. センター名：東海村ファミリー・サポート・センター（茨城県東海村）
委託：東海村社会福祉協議会

連携の現状・効果について

1 連携が必要となった背景

どういったことが問題・課題となり連携することになったのか、その経緯

(1) 何が問題・課題だったのか

保育のサポートで協力会員が利用会員のところに何うという通常のサポートをやっている中で、保育園に登園している子が、お父さんのひとり親の家庭で行き渋りのようなところがあって、朝の送り出しなどが難しいということだった。

(2) 連携までの経緯

保育サポートが、有償サービスではあるがボランティアな部分も含めて、定期的に声がけなどの活動のサポートに入れないかと行政から依頼があった。そこから、どういう形だったらサポートできるかと行政とも連絡を取りながらサポートの形を考えていったというのが一つの経緯としてある。特段のサポートが必要そうな児童、お子さんに関しては、行政（子育て支援課等の子育て関連部署）からセンターにくる相談が経路としては一番多い。

また、センターの運営主体が社会福祉協議会であり、日頃からの信頼関係が行政と構築出来ていたこともあり、行政が最初に相談する相手としてファミリー・サポート・センターがある。

2 連携の内容、役割分担

(1) 連携の内容について

当初は、3人兄弟の末子に対する保育園への送迎支援で問題なく支援が出来ていた。しかし、末子が小学生になった頃に、真ん中の子の不登校（行き渋り）が始まったことやその家庭が経済的な理由から学区外に引っ越したことなどが重なり、その家庭への支援（朝の声かけ、登下校時の送迎等）をファミサポ、行政、小学校、民生委員児童委員が連携して展開することとなった。

(2) ファミリー・サポート・センター、連携先機関、それぞれの役割

複雑な家庭であり、要保護児童対策地域協議会においても支援対象となっていたこともあり、行政（子育て支援課）が中心となり、関係者間で連携を取っていた。ファミサポは、民生委員児童委員と連携して、子どもたちが毎朝の登校ができるように随時複数人で関わり、支援を継続した。また、不登校という問題もあり小学校の教頭先生をはじめ担任の先生等も親身に対応していただいた。

3 うまく対応できた事例、連携効果

(1) 実際に対応した連携事例で適切な対応ができたと思う活動について

提供会員から得られた情報を関係者と共有することで、周りの社会資源を巻き込みながら、この家庭を支援する体制づくりができたことは、連携事例として適切な対応であったと思う。情報共有は、必要なタイミングでケースカンファレンスを開催するとともに、関係者で作ったLINEグループが切れ目のない支援につながったと感じている。

(2) 適切な対応を行うためにどのようなことが重要だったか。どのような体制や対応をすればうまくできているか

関係者間の情報共有が円滑に出来ていたことで、それぞれが適切な対応を取れていたと感じている。ファミサポ（アドバイザー）も適宜、提供会員からの情報を確認し、その都度対応するように努めたことが今回の事例では重要であったと感じる。

4 今後の目標や目指すところ、取り組みたいこと

今回の事例のような困難事例に対するファミサポとしての対応については、今後検討する必要があると考えている。具体的には、ファミサポとして「どこまで関わるのか」であったり、「どのような関わり方が出来るのか」という点については、組織として考えていきたい。

また、センターの運営主体が社会福祉協議会であることから得られた情報（社会福祉協議会の他部署からの情報提供）もあるので、ファミサポ運営主体によって出来ることは多くあると思う。

連携における問題点・課題

1 連携にあたっての問題点、課題

(1) ファミサポの事業と他機関との連携を行う上で、問題となったことや課題、またその対応方法について

今回の事例では、行政、学校、民生委員児童委員、主任児童委員との連携が円滑に行われていたが、地域で小学生の下校時見守りや防犯パトロール等をしている自治会や支援組織との連携については課題があった。具体的には、自治会や支援組織等の地縁関係者に支援が必要な児童やその家庭に関する個人情報の共有をすることの難しさがある。

理想は地域の公私関係者がそれぞれのできる範囲で役割分担を行うことであるが、今後の課題と認識している。

(2) 今後のスムーズな連携に向けての要望

まずは、地域での連携相手となる多様な社会資源を増やしいかなければならないと感じている。それには、行政からの働きかけを含めて活動者を増やしていく必要があると考えている。

特色ある取組について

1 センターの特色を踏まえて、特に連携機関の方について

連携相手(行政)の立場からみると、ファミサポ事業を社会福祉協議会が行っている点が一番大きな安心材料の一つではあると思う。(組織としての信頼がある。)確かに、サポーター(提供会員)は一個人、普通の方がやっていらっしゃるが、取りまとめは社会福祉協議会でやっているというところが、一番の安心材料だとは思っている。

ファミリー・サポート・センター事業のあり方について

1 これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業はどのような支援・連携が求められ、どのような支援・連携を行っていく必要があると思うか。事業のあり方についての考え。

制度にとらわれなくて、ある程度柔軟に対応できるサポーターが必要であると感じている。一例としては、送迎や声掛けという活動もあれば、急に依頼内容が変わり勉強を見てもらうなどは現場では起こり得ることである。その中で、ファミサポ事業が単一的な活動で「このサービスをやります」とうたってしまっていると、できない部分だと思う。だから、ある程度、個人対個人の、提供会員と利用会員の中で、1対1の取り決めの中で柔軟に動ける、ファミリー・サポートみたいな取り組みというのは、大事なのかなと思う。

ある程度遊びがあるというか、その中で動けるというのは、今後にも必要になってくるし、重要性も高まっていくのではないかなとは感じている。あまり制度で縛っていつてしまうと、なかなか動きづらくなっていつてしまう部分があると思うので、そういう意味では、元々、我々は発端が任意団体から始まったということもあるので、ある程度柔軟に動けているというのが、今の強みなのかなと思っている。ただ、支援の内容が複雑になってきてしまったりすると、提供会員としては、育成が大変だったりとか柔軟性が求められたりなど、大変になってくるかとは思いますが、ますます大事になってくるのではないかなというのは、個人としては思う。

《他機関との連携》

8. センター名：枚方市ファミリー・サポート・センター（大阪府枚方市）

委託：社会福祉法人大阪水上隣保館

連携の現状・効果について

1 連携が必要となった背景

(1) どういったことが問題・課題となり連携することになったのか、その経緯

① 何が問題・課題だったのか

1 つ目に、「ニーズの把握と発信力の弱さ」があった。ファミサポの業務は未だ会員になられていない方がなぜ利用されていないのかということ把握したり、会員でない方にファミサポについて知ってもらうことが難しいという課題がある。広場とファミサポの連携を深める前は、広場を利用する方でもファミサポを知らない状況や団体の登録説明会を行っても参加者が増えないという課題があった。

2 つ目に、「提供会員の高齢化に伴う人材不足」があった。

3 つ目に、「広場の利用者からの相談にファミサポを紹介することが増えたこと」があった。利用者からの相談を受けファミサポにつなぐなか、すぐに登録される方がいる一方、子どもを預けることへの抵抗感、準備物の準備、登録会への参加など、登録にハードルの高さを感じられる方もいることが見えてきた。

関係性を築いた広場のスタッフが寄り添うためにも、広場とファミサポの連携が必要となった。

② 連携までの経緯

委託先の社会福祉法人は、児童養護施設や乳児院等の子どもの福祉に関わる法人である。2004 年から公立幼稚園の跡地で社会的養護の子どもたちのショートステイ事業を枚方市と連携して実施していたほか、広場の運営、24 時間の子育て電話相談の 3 つの事業を行っていた。そのようななか、枚方市が直営で行っていた「サプリ村野」内の広場、ファミサポ事業も委託形式に変更となり、同法人が運営を担うことになった。委託を受けた当初、広場とファミサポは連携しながら運営されている状況ではなく、年間約 2 万人が利用する広場の運営で手一杯の状況でもあった。その後、少しずつ双方が連携することになった。

社会的養護の子どもたちとも接する機会が多いなか、「手を差し伸べられる、使いやすいファミサポにしたい」という希望が、広場とファミサポの連携を進める根っこにある。

連携の具体的な契機として、「2021 年 12 月で実施した広場でのアンケート調査において孤軍奮闘している子育て家庭が多いことが明確になったこと」「ファミサポのスタッフに欠員が出たことで広場のスタッフが兼務で業務に当たる体制が構築されたこと」がある。現在 4 名のスタッフが、ファミサポと広場を兼務している。

2 連携の内容、役割分担

(1) 連携の内容について

(2) ファミリー・サポート・センター、連携先機関、それぞれの役割

基軸には、スタッフの意識改革があった。広場とファミサポが連携する以前には、お互いの領域には踏み込まないという意識があったが、朝礼をしてその日の動きや業務内容を確認し合うことや、ミーティングにはお互いのスタッフが一人ずつ参加することで情報共有に努めるなど、基本的なところから始めた。具体的な連携の内容は、次の 4 つである。

1 つ目に、「広場の発信力の活用」がある。ファミサポの周知はホームページや公式 LINE、ファミサポ通信などを行っていたが、あまり効果を実感できていなかった。ファミサポの依頼会員はほぼ広場の利用者にもなっているため、広場のフェイスブック、インスタ、LINE を活用し、ファミサポのイベントも広場の SNS で周知している。特にリアクションがあるのがインスタである。視覚的に子どもを預けるイメージをもってもらえるように写真付きにしたり、用事のためだけでなく「リフレッシュで利用してもいい」というメッセージも込めながら発信するなど、広場の発信力を活用している。

2 つ目に、「広場を利用した登録会」がある。登録会では保育室を設け、広場スタッフや提供会員が保育を行うことにした。登録の際に顔なじみの広場のスタッフがいることで安心され、提供会員も広場スタッフの保育の様子から学びその後のサポートに活かしてもらえるとという利点もあった。

3 つ目に、「出張登録会での保育」がある。地域に出向いた出張登録会を月 2 回（駅前および各地域の公共施設）行っており、出張登録会においても広場スタッフと提供会員による保育を実施している。ファミサポの説明は事務的な話が多いため、広場の様子を紹介すると興味をもってもらえる。

4 つ目に、「広場スタッフのファミサポ兼務」である。兼務以前は、ファミサポの登録の段階になると引き継ぐ

状況だったが、引き続き広場のスタッフが初回登録を行うことで、具体的にどのような利用をされたいのかなど話ながら登録を行うことや、利用後のフォローも行き届くようになった。また、提供会員の紹介を受けたファミサポのスタッフには言いづらいことを兼務スタッフには伝えることができるケースも多く、利用会員とファミサポ、広場がつながるような声かけや関わりを兼務スタッフが行えるようになっている。

3 うまく対応できた事例、連携効果

(1) 実際に対応した連携事例で適切な対応ができたと思う活動について

(2) 適切な対応を行うためにどのようなことが重要だったか。どのような体制や対応をすればうまくできているか

1 つ目に、2022 年 10 月に新しく行った「お試し体験会」の実施がある。枚方市では 2 歳児未満のお子さんを対象に 5 時間分の無料体験クーポンがあるが、利用につながらない理由の 1 つに、他人の自宅に子どもを預けることに対する不安がある。そこで、普段利用する広場で広場スタッフもいるなかでのお試し体験会を実施し、心理的ハードルを下げる試みを行った。お試し体験会も広場の発信力を利用してインスタでお知らせを上げたところ多くの申込みがあった。次回の実施についても、お知らせ初日で定員が埋まるなど反響が大きい。

2 つ目に、「広場での預かりの増加」がある。広場での預かりは以前から周知していたが、登録の際に紹介するようにしていると、実際の広場での預かりの様子を目にしながら、利用される方が増えるようになった。他の方と一緒に利用することで心理的なハードルも低くなり、広場での預かりを体験したあと、提供会員の自宅での預かりにつながることもある。また、経験の浅い提供会員の活動の場にもなっている。

4 今後の目標や目指すところ、取り組みたいこと

1 つ目に、「気軽に預ける体験を」ということがある。「お試し体験会」や「広場での預かり」によりファミサポを利用する心理的ハードルが下がっているが、さらに広げていきたい。

2 つ目に、「依頼会員から提供会員へ」ということがある。提供会員の不足に対応していくため、依頼会員が提供会員としても活動してもらえるように意識を変えてもらえるような試みを行いたい。これまで養成講座は朝から夕方まで、平日に 3 日間実施という形であったが、日程や時間帯を工夫しながら、保育付きなど依頼会員向けの開催も検討している。

連携における問題点・課題

1 連携にあたっての問題点、課題

(1) ファミサポの事業と他機関との連携を行う上で、問題となったことや課題、またその対応方法について

個人情報の共有の仕方は課題に感じている。連携は行いながらも、個人情報の共有の仕方については細心の注意を払っている。他のひとり親支援機関や行政機関、保健師からの相談や問い合わせもあるが、そのような際にも入手できる情報は限られている。可能な限り打ち合わせを重ねることや、ファミサポに対する理解を深めていただけるように話し合いを重ねて対応している。

特色ある取組について

1 センターの特色を踏まえて、特に連携機関の方について

1 つ目に、「広場スタッフのファミサポ兼務」について。広場スタッフがファミサポを手伝う形である。週 2 回ほど、午後に手伝いをしているほか、養成講座の時期や集団の登録会がある時期は追加で手伝っている。また、報告書の入力も手伝うため、提供会員がお母さんを支えられている様子や、普段の様子が分かり、広場の支援にも役立つとともに、普段目にすることができない提供会員の活動を認識することもできる。ただし、個人情報の共有には細心の注意を払っており、広場における情報の共有は、本人に許可の確認をとった内容のみファミサポと共有している。

2 つ目に、「行政機関との連携のあり方」について。家庭児童相談所や保健センターとの連携は難しいが、社会的養護に関わる社会福祉法人が委託を受けているため、社会福祉法人を通じた家庭児童相談所との毎月の連絡会などがあり信頼感の基礎がある点が、ファミサポと広場の単独実施ではない特徴となっている。

3 つ目に、「行政機関のファミサポに対する理解」について。以前は、行政機関がファミサポで対応が困難なケースもファミサポにつなげるということが行われていた。そこで、ファミサポへの理解を深めてもらうため、家庭児童相談所の職員向け、保健師や助産師の会議、公立と私立保育園の園長さんとのお話、赤ちゃん訪問員の研修などでファミサポの役割を紹介することを試みたところ、行政機関がファミサポを理解してくれることでイレギュラーな依頼がなくなった。また、枚方市では利用補助を以前は立替払いで実施していたが、実際はあまり使用されておらず、原因は手続きの煩雑さであるということがあった。そのような実態を、数字と企画案を書いて行政機関にもっていくことで理解を得ることができ、クーポン化につながった。

ファミリー・サポート・センター事業のあり方について

1 これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業はどのような支援・連携が求められ、どのような支援・連携を行っていく必要があると思うか。事業のあり方についての考え。

枚方市では広場との連携は進められていると考えている。広場での預かり体験会の報告を担当課に行ったところ、枚方市内の他の広場でも行えないかという話につながっている。今後ファミサポと広場の連携を行っていけるセンターは、そのような形で導入されるのも一案だと思う。

困難な家庭を支援していくためには、ファミサポで難しいケースはしかるべき関係機関につなぎ、支援の輪を地域に広げられたらと思う。

《他機関との連携》

9. センター名：ファミリー・サポート・センターくるめ（福岡県久留米市）
委託：NPO 法人ル・バトー

連携の現状・効果について

1 連携が必要となった背景

どういったことが問題・課題となり連携することになったのか、その経緯

(1) 何が問題・課題だったのか

ファミサポの設立当初から、行政機関を中心とした関係機関や関係団体からの支援が必要な家庭に対するファミサポ利用の打診があり、会員登録を行っている。例えば、産後うつだったり、精神的な部分で子育てが困難であるとか、保護者の方に障がいがあるとか、逆にお子さんに障がいがあるとかの事例である。

(2) 連携までの経緯

子育て世代包括支援事業を実施している部署の保健師が支援している子育て家庭の中で、その方たちにとってファミサポが一番適当なサービスと判断した場合に、世帯から同意を得て、保健師からセンターに連絡が入り情報共有、会員登録を行っている。

2 連携の内容、役割分担

(1) 連携の内容について

保健師から紹介のあった保護者が動けないような状況であったり、自宅から出られないような状況の場合には、センターから保護者の自宅に訪問をさせていただくこともある。なお、会員登録はセンターに来ていただくということは前提なので、センターで登録という形にはなるが、どちらにしても担当保健師が同行していただいている。同様にその他の関係機関がつかないで、センターで会員登録するときには、その紹介先の担当者が一緒にいて登録をするという形である。

(2) ファミリー・サポート・センター、連携先機関、それぞれの役割

保健師から紹介の子育て家庭は基本的にハイリスク家庭であることが多いので、保健師も継続的に見守りを行いながら、必要に応じてファミサポを活用していくという形が多い。また、ファミサポの会員登録をしたとしても利用に繋がらないケースもあるので、随時、保健師とセンターが情報共有を行いながら支援をしている。

3 うまく対応できた事例、連携効果

(1) 実際に対応した連携事例で適切な対応ができたと思う活動について

市の保健師が所属している部署で行っている産後ヘルパー（エンゼル応援隊）があるのだが、こちらの事業が特例を除き 6 か月までしか利用できないので、その後の支援としてファミサポ事業を紹介いただき支援が継続した事例がある。

(2) 適切な対応を行うためにどのようなことが重要だったか。どのような体制や対応をすればうまくできると考えているか

日頃からの情報共有は大事であるし、何よりファミサポ事業のことを関係各所に知ってもらうことが重要である。そのため、センター開設当初から地域の子育て支援センターへの定期的な訪問や各種会議に参加させていただくなどの取り組みを継続してきた。

4 今後の目標や目指すところ、取り組みたいこと

センター設立から 18 年経過しているので、提供会員の高齢化と会員確保はすごく課題ではある。理想の循環としては依頼会員が両方会員になって提供会員になるというのがある。またセンターとしては、両方会員も増やしていきたいと考えており、やはり利用者から支える側になれるような方が循環していけばいいなというのが理想である。

連携における問題点・課題

1 連携にあたっての問題点、課題

(1) ファミサポの事業と他機関との連携を行う上で、問題となったことや課題、またその対応方法について

保健師からの紹介でセンターに関わるようになった子育て家庭のすべてが会員登録、利用につながるわけではない現状がある。また、会員登録まで出来たとしても利用に繋がらず、センターとしてはその家庭が現在どのような状況なのかが分からないままになっているケースもある。

そのようなケースについては定期的に、保健師に聞ける範囲で情報提供を依頼している。

(2) 今後のスムーズな連携に向けての要望

ハイリスク家庭のファミサポ利用については、日常的に情報共有を行っていきたいと考えているが、個人情報の観点からどこまでセンターが把握すべきかなどは検討の余地があると考えている。

特色ある取組について

1 センターの特色を踏まえて、特に連携機関の方について

センター立ち上げの際は、ファミサポ自体が知られていなかったので、関係者もどこの誰か分からないことが多くあったので、挨拶や事業説明の訪問時に最初から担当の市役所の職員の方と一緒に連れて行くとか、市を通して連絡を取ってもらうことを行っていた。そのような形で自然とファミサポの周知と関係者との連携が出来る下地が出来てきたのだと感じている。

ファミリー・サポート・センター事業のあり方について

1 これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業はどのような支援・連携が求められ、どのような支援・連携を行っていく必要があると思うか。事業のあり方についての考え。

市と連携において、保健師経由でハイリスク家庭の支援の一つとしてファミサポが関わることについては、アドバイザーも提供会員の負担について非常に気を使っている。ただ、現実にはハイリスク家庭に対してできるサポートは、今のところファミサポしかないというような現状も分かるので、そこはやはりマッチングのときにとても神経を使う。「この提供会員なら」と思う方は限られてくる。結果、特定の方をお願いをしてしまうことが多い。連携を強化し、様々な事業に関わる会員を増やしていきたい。

IV 会員（提供会員、依頼会員、両方会員）

10. センター名：立川市ファミリー・サポート・センター（東京都立川市）

直営：立川市子ども家庭部 子ども家庭支援センター

◆提供会員◆

提供会員情報

- ・お名前：Aさん
- ・会員登録年数(活動年数)：11年
- ・活動件数：年間 約195件(2021年度) 月 約16件
- ・主なサポート内容：
障がいを持つ子の援助・休みの日の預かり・保育園送迎など
1人の依頼会員を10年間継続してサポートしている。
(障がいを持つ乳幼児のサポートから開始し、現在3人兄弟になり休みの日の預かりなど)

提供会員活動を通じて思うこと

1 提供会員になった動機

(1) 提供会員になった動機・きっかけ

末娘が習っていたピアノの先生がファミサポを利用して、先生と娘さんと援助会員さんとのやり取りがとてもほのぼのとして和やかで温かいものを感じた。自分の子育てもひと段落して、無理なく何か社会参加ができるといいかなと思っていたところに、ママ友から誘われ事業説明に参加。体験発表で援助会員や依頼会員のお話を色々かかかって、ちょっとやってみようと思った。

(2) ファミサポを知ったきっかけ、会員登録までの経緯

末娘の同じ学年のママ友が、たまたま援助(提供)会員の活動をしたことがあるという話を聴いて、ファミサポの活動に興味を抱いたことがきっかけである。会員登録は、ファミサポの活動を知って1年後ぐらいである。活動を始める前はパートの仕事をしていたが、休日でも子どもと一緒に家でできる活動があったらいいなと思って会員登録をすることにした。

2 ファミサポの活動について

(1) 具体的な活動内容、またその活動をどのように感じているか

自宅での預かりも、依頼会員のお宅での預かりもある、お預かりする子は1人から兄弟3人の時もある。保育園・幼稚園の送迎や習い事の送迎、障がいを持つ子のサポート。

お子さんとお母さんのお話を伺ってからご要望に合わせるというかたちでサポートさせていただいているが、自分のペースでできるというのが、自分には合っていると思う。

(2) 実際に援助活動をする中での印象に残った活動

姉妹のお子様を自宅でお預かりしたとき、娘も一緒にスイーツ作りやパン作りをしたり、楽しく遊ぶことができ良い思い出がいっぱいできたので、すごくよかったと言っている、その経験があるので小さい子との関わりが上手と褒められる事もあるようだ。

(3) 提供会員として、ファミサポの活動を通して得たこと

援助会員になっていなかったら、きっと関わる事がなかったと思う、障がいのある子のサポートをすることで、ハンディキャップを持っている子への対応を知り一つの個性として捉えることができ、自然に接することができた。今はYouTubeを見て勉強するのが楽しい。

(4) 今後、どのように活動していきたいか

安全面はちゃんと考慮しながら、のんびりとゆったりとした気持ちでサポートを続けていきたい。子どもたちから元気をもらえることが自分のモチベーションになっている。

3 特色ある活動内容について

(活動することへの家族の理解については、)最初、夫は他人様の子どもを自宅でお預りして、もし何かケガでもしたらという不安があり、反対だったが、一番最初のサポートは未就学の姉妹で日曜日に長時間、朝から夕方までの預かりをすることが多く、夫も一緒に過ごしサポートの回数を重ねることで、大丈夫そうだなと安心したようだった。姉妹のサポートは中学生になった今も数回だが続いている。

ファミサポについて望むこと

1 ファミサポ事業のあり方

(1) これからのファミサポ事業について提供会員の立場からの考え

ファミリー・サポートという活動があることをまず自分もほぼ知らなかった。たまたま友人がいて知ったので、やはり認知度が低いというのがあると思う。現会員は謝礼金が上がるからといってサポートに対する姿勢が変わることはないと思うが、これから援助会員になる方たちには重要かもしれないと感じている。依頼会員さんの負担を増やすことなく、謝礼金を上げること、国や行政が助成してくれるとよいと思う。

アドバイザーへの質問

1 アドバイザーからみるセンターと会員との関係性

(1) 自センターの会員の方々と、センターとしてどのような関係性を築いていらっしゃいますか。また、提供会員の確保のために、会員に協力いただいていることがありますか。

マッチングのときはアドバイザーも間に入って、安心してサポートできるようにいろいろな細かいこともお話を伺ってという形でスタートをしている。また、提供会員の方が活動をしていく中で、何かあったときはすぐに相談に来てねという形で、気軽に声をかけていただけるような雰囲気づくりと関係を作っている。

◆依頼会員◆

依頼会員情報

- ・お名前: Bさん
- ・会員登録年数: 8カ月 (2021年3月入会 他県から転居してきてすぐに登録)
- ・依頼件数: 年間 約40件(2021年3月～2022年9月) 月 約6件
- ・主な依頼内容:
 - ・引越しの片付けの間サポート
 - ・就労間の預かり(在宅での仕事)など

依頼会員活動を通じて思うこと

1 依頼会員になった動機

(1) 依頼会員になった動機・きっかけ

立川市に引っ越す前に、夫の仕事の関係で他県に在住しており、夫の仕事も多忙でほぼワンオペ育児だったため、子どもの預かりで依頼した。それからほぼ毎日利用していた時期がある。

(2) ファミサポを知ったきっかけ、会員登録までの経緯

ファミサポについては、出生届を出した時に頂いた冊子の中にファミサポの紹介ページがあったこと、1～2か月児の保健師訪問の際にファミサポの話を聞いたことなどから知った。立川市に引っ越すことになり、他県でのファミサポにとっても助けられてので、立川市でも依頼したいと思い会員登録をした。

2 ファミサポの活動について

(1) 具体的な利用内容、またその援助に対してどのように感じているか

子どもの預かりをお願いしている。提供会員の方は、子どもの遊びもよく知っていて、集中して子どもと一緒に遊んでくれる。その援助会員さんにかかる、身の回りにあるすべてのものが楽しいおもちゃに変身するなど、親としても勉強になっている。

(2) 実際に依頼をして援助を受ける中で印象的な活動について

預かりの場所は依頼会員の自宅が主であるが、子どもの成長に伴い、最近は子育てひろばに行ったりすることでもできた。家にはないおもちゃがあったりするので、楽しく過ごしている様子。

(3) 依頼会員として、ファミサポの活動を通して得たこと

子育てをしていく中で、孤立になりがちな状況を提供会員に親身にフォローしていただいている。提供会員

の方が親戚(お姉さん)と感じるくらい良くしてもらっているし、子どもとの遊びについても色々な発想・遊び方を見ることができるのはありがたい。

(4) 今後は、ファミサポをどのように利用したいと思うか

謝礼の額としては少なすぎるのではと思っている。もう少し多く払えたらよいかなと思う。その理由は、その方がもう少し気兼ねなくお願いできるため(700 円だと安くてお願いするのが申し訳ない気持ちがあるため)。ただ、地域の助け合いの活動、(有償)ボランティアなので、お金が目的ではないというところもあるのかとも思う。

ファミサポについて望むこと

1 ファミサポ事業のありかた

(1) これからのファミリー・サポート・センター事業について依頼会員の立場からの考えや要望

これだけお世話になっているので、いずれは提供会員となり、恩返しをさせていただきたいと感じているが、もう少し子どもが大きくなるまでは、仕事をフルでしたいと思っている。時期が来たらぜひ恩返ししたい。

アドバイザーへの質問

1 アドバイザーからみるセンターと会員との関係性

(1) 自センターの会員の方々と、センターとしてどのような関係性を築いていらっしゃいますか。

また、提供会員の確保のために、会員に協力いただいていることがありますか。

入会のときも細かく説明をさせていただきながらマッチングにつないでいるのと、顔合わせのときにも何でも気軽にこちらにもいろいろお話をしていただけるように、信頼関係を大切にしている。アドバイザーと依頼者側が信頼関係を持てるように、顔合わせの時間を十分に取って、安心して預けてもらえる形を取っているところである。

《ファミサポ会員》

11. センター名：たかまつファミリー・サポート・センター（香川県高松市）

委託：NPO 法人たかまつ男女共同参画ネット

◆提供会員◆

提供会員情報

- ・お名前： C さん
- ・会員登録年数(活動年数)：5年
- ・活動件数： 年間 約345件 月28件
- ・主なサポート内容：
現在関わっているのは5名(2022年12月時点)
頻度は週1、月1、週3、平日毎朝など様々
年齢は1歳、1歳半、6歳、6歳双子、10歳
習い事の送迎、平日毎朝や夜の依頼会員宅でのサポート、提供会員宅での預かりなど。
発達特性のあるお子さんや精神的にしんどいお母さんのサポートも行っている。

提供会員活動を通じて思うこと

1 提供会員になった動機

(1) 提供会員になった動機・きっかけ

友人に提供会員と依頼会員がおり、ファミサポの存在は知っていた。依頼会員の友人が、「(提供会員の氏名)さんが提供会員になってくれたらいいな」と軽く発言されたことがきっかけで講習会を調べ、受講することになった。講習会の内容は魅力的で楽しく、実際に提供会員として活動されているかたのお話を伺い活動も楽しそうだと感じたが、事故の対応など不安な気持ちもあった。講習会修了後、事務局から登録していただけるかと声掛けがあり、送迎ぐらいならと会員登録を行った。翌日、電話で未就学児(女兒)の送迎に関するサポートの依頼があり活動を行うことになった。久しぶりに小さな子どもと接する新鮮な機会となり、子どもが懐いてくれたことも嬉しく、このようなことで役に立つことができるのならと思い継続的に活動することになった。

(2) 提供会員増加のために必要なこと

活動内容を一般の人に届くように周知することが必要であると感じる。子育てを終えた提供会員のターゲット層にファミサポの情報は届きづらく、広報に記載されているだけでは空いた時間を利用して活動できるということも分かりづらいかも。提供会員が不足している状況は、今回のヒアリングを通じて初めて知ったため、口コミで会員から広げていく努力も必要だと認識した。また、これほど足りていないという具体的なニーズがもう少し伝わる形になる必要があると感じる。

2 ファミサポの活動について

(1) 具体的な活動内容、またその活動をどのように感じているか

送迎に関するサポートから始めた。依頼会員との関わりもそれほど多くなく、送迎が終われば活動が終わる形だったが、続けるなかで預かりも少しずつ増えていった。現在は依頼会員のご自宅で依頼会員(母親)と一緒に、発達特性のある双子のお子さんを、平日毎朝起床から幼稚園に送り出すまでのサポートや、夜の忙しい時間帯に依頼会員(母親)が家事をしている間、お子さんをみるという活動が多くなっている。

現在5名の依頼会員のサポートを行っているが、週1、月1、週3、平日毎朝などサポートの頻度は異なる。

(2) 実際に援助活動をする中での印象に残った活動

妊娠中に上のお子さんのサポートを行っていた際、出産後助産院へお子さんを連れてお伺いしたところ、産まれたての新生児を抱かせてもらい家族のように一緒に喜び合えたという体験は貴重で、とても嬉しかった。また、バレエの発表会に招待されたり、思いがけないふれあいは印象に残っている。自分自身はしんどい子育てをしてしまったという反省が、提供会員の活動につながっているため、依頼会員に喜んでもらえる楽しさもあり、蓄積されていく印象的な出来事は宝物になっている。

(3) 提供会員として、ファミサポの活動を通して得たこと

言うことを聞いてくれないお子さんに対して褒めるように心がけたところ、関係が築けて素直に対応してくれるようになったという経験がある。活動を通じて楽しさだけではなく学びがあり、勉強になっている。

(4) 今後、どのように活動していきたいか

手遊びなど、子どもとの遊び方を増やしたり、スキルアップをして継続的に活動を行ってきたい。

3 特色ある活動内容について

送迎サポートから預かりサポートへの移行について

事務局からの依頼によって徐々に移行した。送迎サポートに慣れてきた頃に1日だけの預かりサポートの依頼があり、徐々に依頼の幅が広がりステップアップした状況である。

ファミサポについて望むこと

1 ファミサポ事業のあり方

(1) これからのファミサポ事業について提供会員の立場からの考え

単なる送迎や預かりだけでなく、子どもの成長の手助けを行えるようにしたいという想いがあるため、登録時の講習会は大切であると思う。心構えが必要な活動であるため、質の良い提供会員が増えてほしい。

提供会員の活動は一人で行うため孤立感もある。事務局との関係性も大切だが、ささいなことを意見交換し合える提供会員同士の横のつながりも大切だと感じる。あらたまった意見交換の場というよりも、何か一緒に作業を行いながら雑談や自然な会話ができる場が増えていくことも良いのではないかな。

アドバイザーへの質問

1 アドバイザーからみるセンターと会員との関係性

(1) 自センターの会員の方々と、センターとしてどのような関係性を築いているか。また、提供会員の確保のために、会員に協力いただいていることがあるか。

■ 提供会員との関係構築

- ・提供会員とのコミュニケーションを大切にしており、報告書の提出時に活動の話を詳しく伺ったり、世間話をしながら提供会員の人柄を知りマッチングに活かしている。
- ・マッチングに関しては紹介責任の重要性を自覚したコーディネートと、アドバイザーの共通認識としている。
- ・活動状況をアドバイザー全員で把握・共有することで、アドバイザー全員がバックアップしている安心感を持っていただけるように心がけている。
- ・難しいサポートの場合、初回にアドバイザーが同行する場合もある。
- ・初回の活動後には、提供会員と依頼会員の両方に電話を入れ、サポート内容にズレが生じていないか確認する。そこで何らかの問題が生じている場合には調整を行う。調整等は中立的な立場で行うことを心がけている。また、提供会員に無理が生じていないか丁寧に確認している。

◆ 依頼会員 ◆

依頼会員情報

- ・会員登録年数：6年
- ・依頼件数：年間 約86件 月 約7件
- ・主な依頼内容：
お子さんの年齢：6歳9カ月
学童から自宅までの送迎、帰宅後や母親出張時の預かりと送迎など日常的に依頼。

依頼会員活動を通じて思うこと

1 依頼会員になった動機

(1) 依頼会員になった動機・きっかけ

(2) ファミサポを知ったきっかけ、会員登録までの経緯

大学教員としての勤務先が高松市内にあるが、実家は九州であり、夫は他県で家業を継いでいて遠距離婚である。子どもが1歳の時点で職場復帰することになった。家族による恒常的なサポートが期待できないなか、ベビーシッターや病児保育等の制度を調べる際にファミサポを知り、藁にもすがる思いで登録を行った。会員登録の時点ではきちんと利用可能であるのか、どのような提供会員を紹介されるのか未知数であったが、頼らざるを得ないという状況から登録を行った。

2 ファミサポの活動について

(1) 具体的な利用内容、またその援助に対してどのように感じているか

提供会員2名とマッチングを行っているが、うち1名の提供会員に6年間継続的に活動いただいている。会議の急遽延長や突発的な会議の際の学童保育への迎え、出張時の預かりなど、突発的な依頼も多く日常

的に利用している。曜日や時間など、固定した利用ではない。コロナ禍において学級閉鎖等で保育所や小学校に登校できない際にも活動いただき、提供会員の支援なしには職業生活が成立しない状況である。

(2) 実際に依頼をして援助を受ける中で印象的な活動について

子どもにとって提供会員は祖母の代わりのような存在になっており、子どもは「〇〇さんは家族だよ」との発言をする。また、提供会員と会えることを楽しみにしている。提供会員の前職が少年補導員をされていたこともあり、叱っていただきながらもしっかりと愛着を形成していただいております子どもの人格形成に影響を与えていると感じる。

(3) 依頼会員として、ファミサポの活動を通して得たこと

依頼会員にとっても、子どもの育ちと一緒に見守っていただけているという安心感がある。子どもの特性に関する話を共有したり、仕事上の気になることについてアドバイスをいただいたり、ワンオペ育児の環境の中で精神的な支えになっている。

(4) 今後は、ファミサポをどのように利用したいと思うか

仕事との両立という面では、宿泊を伴う援助が利用しやすくなれば良いと感じる。宿泊を伴う出張業務に関して、保育所の際には比較的休ませやすかったが、小学校に入ると休ませづらく帯同による出張業務の困難さを感じている。

個別質問

■ベビーシッターとファミサポの違いについて

現状として、ファミサポで対応いただけているためベビーシッターはほとんど利用していない。ベビーシッターはファミサポとは異なり確実に対応してもらえという確約があるが、誰が来られるか分からないベビーシッターよりも、子どもが安心して過ごすことのできる提供会員のほうが良いという状況になっている。

■事前打ち合わせについて

未就学児である1歳の子どものことについての依頼であったため、不安感もあり緊張状態であった。預かり中の子どもの様子が分からず、様子を聞くことも疑っているという印象を与えるのではないかと気がかりであった。自分自身は利用せざるを得ないという状況のなかで、提供会員との信頼構築を図ることができたが、提供会員の人柄が分かり安心感が芽生える前に、利用を控える人もいるのではないかと思う。

■提供会員との関係構築について

基本的に感謝の気持ちを忘れず、できるだけ言語化してお伝えすることは心がけている。あくまでも提供会員の生活のなかでの余白の時間で支援いただいているため、当たり前という気持ちにはならないように気を付けている。また、あくまでも可能な範囲で支援いただくことを意識している。

ファミサポについて望むこと

1 ファミサポ事業のありかた

(1) これからのファミリー・サポート・センター事業について依頼会員の立場からの考えや要望

利用申請や活動報告がメールや紙媒体でのやり取りとなっていること、報酬の精算について、月末に当面でのやり取りとなっていることについて、依頼会員の利便性という面からはアナログ性を緩和してDXを行っていただければと思う。

アドバイザーへの質問

1 アドバイザーからみるセンターと会員との関係性

(1) 自センターの会員の方々と、センターとしてどのような関係性を築いているか。また、提供会員の確保のために、会員に協力いただいていることがあるか。

■依頼会員との関係構築

・ファミサポが安心して相談できる場所であることを何よりも大切にしている。事務所内の雰囲気やスタッフ同士のやり取り、人間関係のあり方などに心配りをしている。

最初の面談では、肯定的に共感的にしっかりお話を聞く傾聴を大切にしている。出張登録時には複数名を対象に説明等を行うため、ファミサポの趣旨やアドバイザーの想いが伝わりづらいと感じることもある。そのため、事務所での登録時には1時間弱の時間をかけてファミサポの趣旨や支援内容などについて説明しながら、お子さんの様子も詳しく聞かせていただいている。

《ファミサポ会員》

12. センター名：枚方市ファミリーサポートセンター（大阪府枚方市）

委託：社会福祉法人大阪水上隣保館

◆提供会員◆

提供会員情報

- ・お名前：Eさん
- ・会員登録年数(活動年数):8年
- ・活動件数:年間128件
- ・主なサポート内容:
 - ・預かりのみ、送迎のみ、送迎+預かりなど様々なケースのサポートをされている。
 - ・兄弟のサポートも多くされている。
 - ・障がいのある方や、精神的にしんどい方のサポートもされている。

提供会員活動を通じて思うこと

1 提供会員になった動機

(1) 提供会員になった動機・きっかけ

私の長女が依頼会員として登録していて利用もしていた。その中で私自身が空き時間があつたので、「もし良かったら、お母さん子どもが好きだし登録だけしてみたら？」という長女からの声かけがきっかけである。

(2) 提供会員を増やすために重要なこと

ファミサポ事業自体がまだまだ地域に知られていないと感じる。依頼される方は、お子さんを育てていて困ったことがあったりして、子育て支援の冊子を頂いたり、口コミがあつたりしてファミサポ事業を知る機会があるが、逆に提供会員の方は、私は結構年齢が上の方だが、そういう年齢層の方がこのセンターを知るきっかけがない。

広報には、よく出張依頼会員登録会みたいなものを開催していると載っているが、そういうものは娘が登録する前からずっとあったと思うが、私自身も実は広報を見ているところもそこは全然素通りで行く感じで、「これ、何やる？」と興味を持つこともなかった。

2 ファミサポの活動について

(1) 具体的な活動内容、またその活動をどのように感じているか

(2) 実際に援助活動をする中での印象に残った活動

保育園の送迎が活動としては多い。その中で、保育園によって送り迎えの際のルールが違ったり、園の先生のファミサポ事業への理解度もそれぞれであるので、最初は戸惑うこともある。しかし、園の先生がファミサポ事業自体を知らないということはないので問題はない。園の先生とも積極的にコミュニケーションをとることで顔を覚えてくれている。

(3) 提供会員として、ファミサポの活動を通して得たこと

(4) 今後、どのように活動していきたいか

時代の流れがあつて子育てがすごく変わってきているので、今の子育てを知ることができることはとても良いことだと感じている。自分が子どもを育てたときと、娘の時代も違うし、孫の時代も違う。そして今、また違うという子育ての内容。今の子は「離乳食はこれぐらいから始めるんや」とか、おもちゃも「今の子はこんなんでも遊ぶんや」とか、そういう時代の流れみたいなものはすごく感じる。それがまた勉強になって、離乳食などもどんどん便利なものが出てきて、古い話をママさんたちに「私が子育てしてたときは、こんなんやってんよ」とか言ったりする。

3 特色ある活動内容について

提供会員として活動する際のコミュニケーションの重要性

お子さんをお預かりするときも、初めはお母さんが出て行かれたときにお子さんが泣いていたら、お母さんは絶対心配なので、ご機嫌になって遊んでいるとすぐメールを入れたり、お迎えの時間が近づいているときにお昼寝していたら、まだ、お昼寝しているがどうするかと、細かく連絡してコミュニケーションを取っている。また、保育園の送迎の際も、お母さんに対して、「こういう時はどうしたら良いですか？」と細かく確認したり、送迎時の状況を丁寧にお伝えするように心掛けている。例えば、園の掲示板に書かれている内容を写メしたり、お子

さんの着替えやおむつの数を確認したりしてお伝えしている。そうすることで、お母さんも安心して利用することが出来ていると感じている。

ファミサポについて望むこと

1 ファミサポ事業のあり方

(1) これからのファミサポ事業について提供会員の立場からの考え

自分もそうだったが子育てというのは、1人でできないと思う。それこそ近くに親がいたり、誰か助けてくれる方がいれば頼めるけれども、それができなくて1人でやっていて、すごく困っている方がいるのであれば、少しでも手助けできるのだっただけという、初めそんないい格好の気持ちだった。

でも、実はやってみたら、小さな子に接するというのがすごく楽しいのである。子どもさんは成長がすごい早いので、もう本当にびっくりするぐらい「わあ、こんなことができるようになった」とか、「あ、おしゃべりできるようになった」とか。もう長くお付き合いすればするほど、そういうのがすごく分かってくるので、サポートをお願いしていいかというメールが来たら、すごくうれしく感じている。

アドバイザーへの質問

1 アドバイザーからみるセンターと会員との関係性

(1) 自センターの会員の方々と、センターとしてどのような関係性を築いていますか。また、提供会員の確保のために、会員に協力いただいていることがありますか。

提供会員とは報告書を受け取ったらメールにてお礼を伝えたり、しばらくサポート活動がない方へは登録会に保育サポーターとして参加してもらおうなど、モチベーションを維持してもらえるよう気をつけている。保育中の様子を伺うことで、その方のスキルも把握することができる。またサポート活動での困りごとの相談があった際はスタッフで検討したり、必要に応じて役所の担当課へも相談するなどして、サポート活動を支えている。また確保のためにはお知り合いの方にファミサポの活動を紹介してもらって養成講座を案内してもらっている。

◆依頼会員◆

依頼会員情報

- ・お名前：Fさん
- ・会員登録年数：2年
- ・依頼件数：20件(2022年度) 90件(2021年度)
- ・お子さんの年齢：5歳、3歳、11カ月
- ・依頼内容：
 - ・産前産後の上の子どもさんたちの保育園の送迎や、下の子どもさんの預かり。

依頼会員活動を通じて思うこと

1 依頼会員になった動機

(1) 依頼会員になった動機・きっかけ

2番目の子どもが生れた時に遊ぶ場所を求めて枚方市内の広場に遊びに行っていた。そこでファミサポの登録会があり、広場の方から案内していただいた。

(2) ファミサポを知ったきっかけ、会員登録までの経緯

妊娠・出産の際に市からファミサポ事業の案内を受けていて事業自体は知っていたがすぐに会員登録までには至らなかった。その後、ファミリー・ポートでの登録会があることを教えてもらい、「登録だけでもしてみようかな」という感じで会員登録をした。

2 ファミサポの活動について

(1) 具体的な利用内容、またその援助に対してどのように感じているか

会員登録から実際に利用したのは2年後くらいであった。3番目の子どもが生れるタイミングで色々と手が回らなくなり、上の子の保育園の送迎と預かりをお願いした。利用させていただく前は、利用するのにいろいろ決まり事や制限があるイメージがあったが、実際お願いすると結構融通も利いて、利用していてそんなに制限があるとは感じていない。

(2) 実際に依頼をして援助を受ける中で印象的な活動について

子ども2人は人見知りもそんなになく、結構急をお願いして、私も入院していなくなった状態だったが、今でも「〇〇さん、〇〇さん」と言って、お迎えをお願いすると喜んで、すごく懐いている。

(3) 依頼会員として、ファミサポの活動を通して得たこと

本当にすごく融通も利かせてもらい、普段子育ての相談にもいろいろ乗っていただいているので、サポーターさんというより、近くにいる親戚のような感じで心の支えになっている部分が多い。もちろん、お預かりなどのサポートも助かっているが、すごく心の支えになっている。

(4) 今後は、ファミサポをどのように利用したいと思うか

子どもたちが非常に提供会員に懐いているので、引き続きサポートをお願いしたいと考えている。

個別質問

よく預かっていただいている一番下の子は、実家の両親だとすごく人見知りするのが、提供会員さんのことをおばあちゃんだと思っているのではないかというぐらい、よく懐いている。去年、この子が生まれる前は私が上の子どもたちと会えない状況だったので、LINE を使ってよく子どもの状況を教えてくださった。「保育園でこんなもの作っていたよ」とか、保育園の連絡事項についても主人がお迎えに行くより全然よく教えてくださるし、子どもの様子もまめに教えてくださったので、それだけが結構情報源で、すごく安心することができた。

また、コロナの休園とかでずっと子どもたちが家にいる状態で結構しんどかったが、LINE で「大変でしょう」とよく気遣ってくださったりして、何かあったら頼ろうと思えたので、いつも大変助かっている。

ファミサポについて望むこと

1 ファミサポ事業のありかた

(1) これからのファミリー・サポート・センター事業について依頼会員の立場からの考えや要望

初回利用のハードルについては、確かに頼らざるを得なくなったところまでは、例えば私が体調を崩してしんどいというときでも、利用しようと思ったことがそれまではなかった。多分、最初の一步はちょっと面倒くさいというのもあったりで、時間がかかってしまったというのがあると思う。それまでは何とか頑張ってきただけで、確かにそういう意味では利用のハードルはあったかもしれない。

アドバイザーへの質問

1 アドバイザーからみるセンターと会員との関係性

(1) 自センターの会員の方々と、センターとしてどのような関係性を築いていますか。

また、提供会員の確保のために、会員に協力いただいていることがありますか。

入会手続きの際にニーズをきちんと把握・整理することによって、その方、あるいはその家庭に合ったサポートを提案するよう心がけている。また個人宅へ預けるハードルが高いと感じるお母さんも多いので広場を利用した体験会を開催して気軽にサポートが利用できるよう工夫している。

提供会員確保のためには依頼会員から提供・両方会員へシフトチェンジしてもらえるよう子育て中でも受講しやすい講座を開催。養成講座とは異なるプログラムを準備し、1日1コマずつ半年かけて修了できるよう工夫している。

◆両方会員◆

両方会員情報

- ・お名前: Gさん
- ・会員登録年数: 3年

入会された2019年度の前期(6月～7月)養成講座を受講後、両方会員に登録

- ・依頼会員としてサポートを受けている件数: 2件
- ・提供会員としてサポートをしている件数: 15件 預かり等のサポート
- ・お子さんの年齢: 11歳、7歳、5歳

両方会員活動を通じて思うこと

1 両方会員になった動機

(1) 両方会員になった動機・きっかけ

家族の転勤を期に、子育ての大変さを身に染みて感じたことがきっかけである。

(2) ファミサポを知ったきっかけ、会員登録までの経緯

学生時代に子育て支援に関する勉強をしていたことがあり、提供会員になったのが始まりである。その後に自身の出産を期に依頼会員になった。自分自身も家族の転勤で周りに子育てを助けてくれる身内がいなく、「こんなに私がしんどいのだから、他のみんなもしんどいんや」と考えて両方会員に登録した。

(3) 提供会員を増やすために重要なこと

提供会員を増やしていくためには、初めから両方会員として登録してもらうというのも良いと思う。講習会の内容は提供会員だけではなく依頼会員となるお母さん達にとっても非常に有益な情報であると感じている。

2 ファミサポの活動について＜提供会員として＞

(1) 具体的な活動内容、またその活動をどのように感じているか

自宅での預かりの際は、自分の子どもの反応が一番すごいと感じている。基本的には子どもたちがいない平日に預かるようにしているが、自分の子どもが、預かっているお子さんに会いたくてどうにか早く帰って来ようとしたり、もう予約がなくなってがっかりするぐらい本当に「いいな、いいな」という感じで一緒に参加してくれている。

(2) 実際に援助活動をする中での印象に残った活動

預ける側のお母さんの気持ちもすごく分かるので、LINE とか子どもの様子を写メしたり動画を撮ったりして、「送ったら、すぐに私の携帯からは消すからね」と言って送っている。そうすると次に預けてくださったときに、やっぱり必ず泣くけれど「どうせ今だけやろ」と言いながらお母さんも預けてくれるから、続けるようにしている。

3 ファミサポの活動について＜依頼会員として＞

(1) 具体的な依頼内容、またその援助に対してどのように感じているか

やはり預ける方はものすごくハードルが高かった。人に自分の子どもを預けるというのは、何か駄目なような感じということと、貧乏性なのか「それにお金を払うのか」ということで、最初のハードルは高かったと思う。

(2) 実際に依頼をして援助を受ける中で印象的な活動

子どもの小学校の授業参観があり、下の子を小学校に連れて行くにはちょっとゆっくりできないので、その授業参観中に預かってもらった。なお、預かってもらうおうと思ったのは、やはり無料クーポンがあったからである。なかったら一緒に連れて行き授業参観を受けたので使っていなかったかもしれないが、無料クーポンを使ってみよう感じで依頼をした。

4 ファミサポの活動について＜両方会員として＞

(1) 両方会員として、提供・依頼 両方の立場を経験した中で、活動を通して得たこと

両方会員の活動を通して、改めて子育ての大変さを実感することが出来たと感じている。また、その大変な子育ての中で、声に出して助けを求められない保護者の方もいらっしゃることを知ることができた。

(2) 今後、両方会員としてどのように活動していきたいか

もっと両方会員がスタンダードな形になれば良いと感じる。依頼会員は自分自身が困っているから会員登録するわけであるが、出来る範囲で提供会員も経験することで得られることは非常に多いと感じている。

個別質問

1 特色ある活動内容について

■ 初回利用時の無料クーポンの有用性について

初回利用時の無料クーポンは、依頼会員にとってありがたいと思う。専業主婦でお金を何も稼いでいないので、子育てすることが仕事ぐらいの感じが自分の中ではあって、そのためにお金を使って何かするというのがやっぱり抵抗があった。それで自分がしんどくなった経験もある。

ファミサポについて望むこと

1 ファミサポ事業のあり方

(1) これからのファミサポ事業について両方会員の立場からの考え

やはり横のつながりで地域ごとの支援というか、突き詰めていけば相互扶助のような、みんな知り合いという地域が理想だと感じている。依頼会員も提供会員もみんな知り合いで、本当にハードルの低い支援ができればいいなという意味では、自分の子どもも交えた本当に融通の利く支援体制が整ってくれたらなと感じている。